

## 関数

関数とは、与えられた値をもとに、定められた処理を実行し、その処理結果を返す命令のことをいいます。与えられた値を「引数」、返される処理結果を「戻り値」といいます。

関数は、式の中に記述して使用します。

### ◇THUMGY Dataの関数（アルファベット順）

関数名	カテゴリ	機能
AGE	データ加工	指定された日付と基準日を比較し、経過日数を返します。
AT	データ加工	検索対象における部分文字列が、指定した番号で出現する位置を数値で返します。
BETWEEN	抽出	指定された値が範囲内にあるかどうかを示す論理値を返します。
DAY	抽出	指定された日付または日付時刻から日にちを抽出し、それを 数値（1~31）として返します。
FIND	抽出	指定された文字列が、特定のフィールド中またはレコード全体のどこかに存在するかどうか示す論理値を返します。
HOUR	抽出	指定された時刻または日付時刻から時間を抽出し、それを 数値（1~23）として返します。
INT	データ加工	数値の小数点以下を切り捨て、整数にします。
JIS	データ加工	指定された文字列またはフィールドを全角文字または半角文字に変換します。
LENGTH	抽出	指定されたフィールドや値の文字数を数値で返します。
MATCH	抽出	指定された文字列（複数可）が特定のフィールド中またはレコード全体のどこかに存在するかどうか示す論理値を返します。
MINUTE	抽出	指定された時刻または日付時刻から分を抽出し、それを 数値（0~59）として返します。
MOD	データ加工	割り算の余りを返します。
MONTH	抽出	指定された日付または日付時刻から月を抽出し、それを 数値（1~12）として返します。
NOW	データ加工	現在のオペレーティングシステムの時刻を返します。
OCCURS	データ加工	検索対象において部分文字列が出現する回数を数値として返します。
OFFSET	抽出	指定されたフィールドの各レコードを基準として、指定した行数に移動した位置にある値を返します。
OMIT	データ加工	指定された1つ以上の部分文字列を削除した文字列を返します。
REPLACE	データ加工	置換対象における置換前の文字列を、指定された文字列で置き換えます。
RIGHT	抽出	指定された文字列またはフィールドの末尾から指定した数の文字を返します。

※次ページに続きます。

## ◇THUMGY Dataの関数（アルファベット順）

関数名	カテゴリ	機能
ROUND	データ加工	数値の小数点以下を四捨五入して、整数を返します。
ROW	抽出	レコードの行番号を返します。
SECOND	データ抽出	指定された時刻または日付時刻から秒を抽出し、それを 数値（0～59）として返します。
SPLIT	抽出	指定された値を区切り文字で分割し、指定された位置の文字列を返します。
SUBSTR	データ加工	指定された値の開始位置から、指定された長さの値を返します。
TODAY	データ加工	現在のオペレーティングシステムの日付を返します。
TRIM	データ加工	指定された値からスペースを除去した値を返します。
ULP	データ加工	指定された値の英字を大文字・小文字に変換した値を返します。
YEAR	抽出	指定された日付または日付時刻から年を抽出し、それを 数値（1900～9999）として返します。

※関数は、順次追加されます。

## ◇関数の構文

関数名(引数1,引数2,...)

- 関数ごとに必要な引数が決められています。
- 関数名は、半角英字大文字で入力します。
- 引数にフィールド、リテラル値を使用する場合の入力規則は、「式」の「◇式の入力規則」を参照してください。

(例) AT関数の式

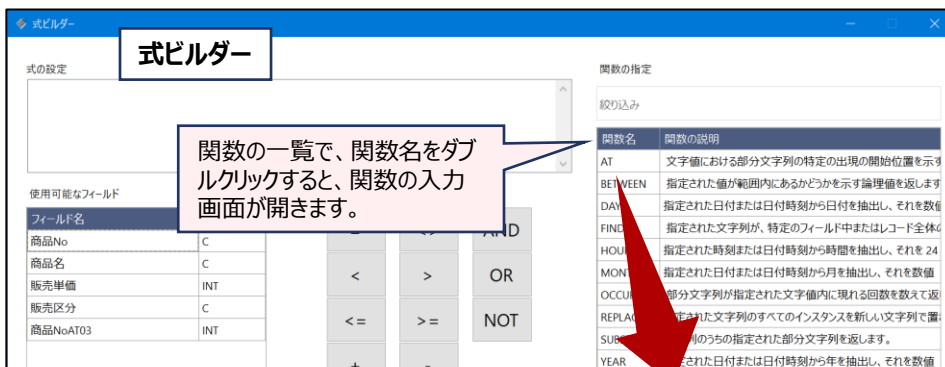
AT( 2 , "03" , [商品No] )

引数1は、数値のリテラル値を指定しています。

引数2は、文字型のリテラル値を指定しています。

引数3は、フィールドを指定しています。

- 式ビルダーを使用すると、関数の入力画面を使用できます。



**(例) AT関数の入力画面**

AT (出現番号, 検索文字列, 検索対象)

出現番号:  位置を返す検索文字列の出現番号を指定します。

検索文字列:  検索する部分文字列を指定します。

検索対象:  部分文字列を検索する対象を指定します。

[商品No]  
[商品名]  
[販売区分]

検索対象における部分文字列が、指定した番号で出現する位置を数値で返します。  
検索文字列が指定された番号で出現する開始バイト位置を返します。  
文字列が検出されなかった場合はゼロ値を返します。

●「検索文字列」: 検索は大文字と小文字を区別します。  
また、検索文字列が二重引用符を含んでいる場合は、検索文字列の値を「」(一重引用符)で囲む必要があります。

フィールドを指定する引数では、リストからフィールドを選択できます。  
リテラル値や式が入力可能な引数の場合は、直接入力します。

OK キャンセル